

## 第2学年 美術科 学習指導案

1 題材 「模写と鑑賞」(友達の作品のよいところを見つけよう)

### 2 指導観

○ 現代社会における情報通信機器やメディアの進化は著しいものであり、私たちの身近な生活を顧みても何でもがそれらを通して解決できそうな状況にある。しかし、そのような状況のなかでも、自分の気持ちや意思を表そうとする際には、やはり見たものや考えたことを自分の手でそのままに表現する力は何よりも必要不可欠なものである。

「学ぶ」ことは「まねる」ことといわれるように、まずまねて描くことが絵を理解するための第一歩である。これまでも多くの芸術作品が繰り返し模写されてきており、模写する過程を通して、私たちは作者のものの見方や考え方、画面構成や色彩の使い方等多くのことを体得していくことができる。

生徒は見た通りにうまく絵を描きたい、思い通りに表現をしたいという気持ちをもっている。しかし、対象を客観的に見て、その通りに表現するにはちょっとした工夫と練習が必要である。

そこで、この単元では、まず模写の仕方を学習し、実際に自分で模写してみて、自分たちが模写した作家の作品をお互いに鑑賞することによって、作家の気持ちや技術に関して知ることできるし、それを模写した人の思いや努力を身近に感じることができると考える。

○ 本学級は、明るく元気で積極的な生徒が多い。まじめに頑張る生徒も多い半面、いい加減で詰めの甘い生徒も若干おり、その意欲に差がある。しかし、美術科の授業全般にわたって、興味をもって意欲的に取り組んでいる生徒がほとんどである。とくにこれまで、静物画を描いたり、デザインで平面構成をしたり、彫刻を作ったりしてきたが、いずれも興味を示して取り組むことができた。

○ 指導にあたっては、そっくりに模写する力を身につけさせたい。そのために、まず子ども向け番組の「マテマティカ」から、拡大して描くためのポイントを理解し、実際に自分の興味のもてるアニメを描く練習をする。次に、2人の画家に関するVTRを鑑賞して、作品に込められた思いや背景などを理解させる。さらに、作家の描いた作品を教科書や資料集の中から選び、画用紙に写していく。最後に出来上がった作品を鑑賞することによって、作品を身近に感じながら、深く理解していく力を身につけさせると同時に、自他の作品のよさや頑張りを見つけて、そこを評価していけるような鑑賞の取組みにしていきたい。また、鑑賞活動の一環として美術館や博物館に行き、いろいろな作品に触れる課題に取り組ませたい。

### 3 単元目標

観 点	評 価 規 準
美術への関心・意欲・態度	○意欲や関心をもって、制作活動や鑑賞活動に取り組んでいる。
発想や構想の能力	○模写をし、鑑賞することで、作家の心情に近づき、思いをはせることができる。
創造的な技能	○模写の方法を理解し、作者の心情を考えながら模写の作業を進めることができる。
鑑賞の能力	○作家の作品や友達の作品を見て、いろいろと考え、そのよさに気づき、感想を書いたり発表したりすることができる。

4 単元の指導・評価計画

単元の配当時間：13時間

※「指導上の留意点」における3つの授業改善のポイントに係る手だて

- ①「教えること」と「学ばせること」を区別した手だて
- ②学習の要所で「考えを書くこと」を大切にしたい手だて
- ③学習したことの「まとめ」と「ふり返し」を徹底した手だて
- ：家庭学習の課題を生かした手だて
- ：一般的な手だて

※「評価規準（評価方法）」における観点

関：美術への関心・意欲・態度 発：発想や構想の能力 技：創造的な技能 鑑：鑑賞の能力

次	時	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1	1	○絵の拡大の仕方を理解する。 (1) マテマティカのVTRを鑑賞する。 (2) 拡大の仕方のポイントを確認する。	① マテマティカのVTRを用い、拡大の仕方について興味を持たせながら理解させる。 ● 拡大の仕方のポイントをαノートに確実におさえさせる。	関 VTRをきちんと見て、理解しようとしている。 (様相チェック)
2	3	○アニメを模写する。 (1) 描きたいアニメの原画を選ぶ。 (2) 前時で確認した模写の方法を再度確認する。 (3) 枠線をたよりにして全体のバランスを考え、絵を写す。	① 課題を選択することによって主体的に取り組ませる。 ① 画用紙に原画と相似形の枠をとり、4等分線を引かせる。 ① 模写のやり方を理解し、絵ではなく、線を写すことを意識して進めてさせる。	関 意欲的に取り組んでいる。(様相チェック) 技 方法を理解して、正確に写すことができる。 (作品分析)
3	2	○美術作品について鑑賞する。 ・ダ・ビンチ 「最後の晩餐」 ・パブロ・ピカソ 「ゲルニカ」	① 巨匠の作品について多方面から述べたVTRの鑑賞によって、深く作品に触れさせる。 ② レポート用紙に感想や自分の思いをまとめさせる。	関 VTRをきちんと見て理解しようとしている。 (様相チェック) 鑑 作品を鑑賞し、いろいろなことを感じ取り、レポートにまとめることができる。(レポート分析)
4	5	○作家の作品を模写する。 (1) 作家の作品を教科書から選ぶ。 (2) 画用紙に原画と相似形の枠をとり、4等分する。 (3) 4等分線をよりどころに全体のバランスを見ながら模写する。 (4) 色を塗って本物そっくりに仕上げる。	① 自分の好みの作品を教科書から選んで模写させる。 ③ アニメの模写で練習した相似形の枠と4等分線を思い出させながら作業を進めさせる。 ① バランスを考えて作業を進めさせる。 ① 作者のタッチや混色の仕方などを考えながら彩色させる。	関 意欲的に作品を選び、熱心に取り組もうとしている。(様相チェック) 関 そっくりに描こうと熱心に取り組んでいる。 (様相チェック) 技 全体を見ながらよく描くことができる。 (作品分析) 関 興味をもって模写に取り組んでいる。 (様相チェック)
	夏課題	○美術館や博物館に行く。	① 美術館等へ足を運んで、いろいろな作品に触れさせる。行けない人は代替課題を与える。	鑑 レポートに自分の考えをまとめることができる。 (レポート分析)

5	2	○作品を鑑賞する。 (1) 自分の作品について感想をまとめる。 (2) 人の作品を鑑賞してレポートをまとめる。 (3) 自分の意見を発表する。	①自他の作品について良いところを発見させる。 ②感じたこと、考えたことを自分の言葉でまとめ、発表させる。 ③模写と鑑賞の授業で学んだことをまとめさせる。	鑑 技	自他の作品を鑑賞し、良い点や工夫できている点を見つけることができる。(プリント分析) 鑑賞することで発見したことや感じたことを自分の言葉でまとめ、発表することができる。(表現分析)
---	---	--	--	--------	---

5 本時 平成 22 年 9 月 日 ( ) 第 校時 計画 1 3 時間中の 1 3 美術室にて

(1) 本時の主眼

○他人の作品を鑑賞し、良い点や工夫できている点を見つけることができる。(鑑賞の能力)

(2) 本時の指導観

前時までに生徒は模写の仕方を理解し、作家の作品の模写を行っている。また、鑑賞では「ダ・ビンチ」と「ピカソ」について学習し、自ら作家の作品を選んで模写することを行っている。前時には、できあがった作品を鑑賞しながら、自分の作品について頑張ったところ、良いところを自己評価する活動をしている。

本時は、友達の作品の良い点や感動したこと等について述べ合う鑑賞会をすることで、自他のよさや頑張りを発見させていきたい。また、それぞれの個性や努力をお互いに認めあうことで、相手を敬い、様々な生き様を認めることのできる、豊かな人間関係づくりの一助としたい。

(3) 準備

教師・・・掲示物、アニメ模写作品、絵画模写作品、感想記入用紙

生徒・・・ファイル、教科書、資料集、模写作品

6 過程

学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)	形態	配時
1 前時の学習内容を確認する。	○前回記入した自分の作品の感想をふり返らせる。		全体	2
2 本時のめあてを確認する。			個	2
めあて：友達の描いた模写を鑑賞して、作品の良いところを発見しよう。				7
3 掲示してある友達の作品を鑑賞する。	①生徒に作品を鑑賞させ、気に入った作品数点についてメモを取らせ、原作者や模写した人の思いにふれさせる。		個	9
4 感想を記入する。 ・気づいたこと ・考えたこと	②人の作品の良いところを発見してまとめさせる。	鑑：作品を鑑賞し、良い点や工夫点を見つけることができる。(プリント分析)	班	5
5 班ごとに発表の仕方を工夫する。	○どういう形で発表するか考えさせる。		全体	2 0
6 班ごとに前に出て感想等を発表する。	②班全員で協力して自分たちの感想を述べる。	技：人の作品を見て発見したことや感じたことを自分の言葉でまとめ、発表する。(表現分析)	個	5
7 全体のまとめをする。	③自分では気がつかなかったが人の意見を聞いて、心に響いたことなどをまとめさせる。			

